

『霧っ子』だより



令和5年5月31日号

【中霧島小学校の概要】

新年度がスタートして2か月が過ぎました。ここに来てインフルエンザが広がりを見せ、5年生では、学級閉鎖を余儀なくされています。各ご家庭におかれましても、手洗い・うがい・換気、そして十分な睡眠と栄養のある食事を心がけていただきますようお願いいたします。なお、発熱等の症状がある場合は、無理をせず、病院受診をお願いいたします。

さて、中霧島小学校は、今年で90年を迎えます。以前（令和3年）の通信でもお示しましたが、中霧島小学校にはどのような歴史的な歩みがあるのかご存じでしょうか。中霧島の地名は、霧島山の東の端にある東霧島（高崎町）と西の方にある西霧島（鹿児島県側）との中間に位置するので、中霧島と名付けられたとのことです。読み方については、なぜ「なかぎりしま」となっているのか不明です。

大正2年、旧国鉄吉都線が開通し、谷頭駅ができたことにより、人口が急増し始めると児童数も増加の一途をたどり、それまで通学していた山田小学校までの通学距離が4kmもあったことから、次第に中霧島地区の学校創立の機運が高まり、昭和9年3月31日、山田小学校から分離独立し、昭和9年11月12日、445名が移転し、職員7名、6学級編制で開校されたとのことです。

創立90年目の中霧島小学校は、児童数155名、職員17名、8学級編制になっています。開校当時は、現在の約3倍の児童が学んでいたこととなります。都城市内には、今年150周年を迎える小学校も数校あるようです。本校は、比較的若い学校ということになります。

【学力向上】

学力向上というと堅苦しいイメージがありますが、本校の課題の一つでもあります。昨年度のCRTテストの結果では、県平均を上回ったのは、6年生（卒業生）の国語だけでした。単元テストとは違って、初めて見る文書だったり、かなり文章量が多かったり、問題文の読み取りに時間がかかったりするという不慣れな点もあると思いますが、読みの浅さもあるようです。そこで、本年度の研究主題を「主体的に読み、伝え合うことのできる児童の育成」副題を～基礎学力の向上につながる活動を通して～としています。そのために、できるだけ「子供が主役の授業」をめざし、ICTを上手く絡めながら基礎学力の向上を図っていきたいと考えています。学力の定着には、家庭学習への取組も重要になってきます。今年のCRTテストでは、県平均を上回るよう取組を強化していきたいと思います。どうぞ各ご家庭での支援や協力をよろしくお願いいたします。

【今月のトピック】



【不審者対応避難訓練】



【ボランティアの方々との交流】



【平和学習（修学旅行；知覧）】